



no.156

2011年(平成23年)  
7月20日発行

この樹どんな樹?見に行こう! / 井草森公園のタブノキ  
みどり探訪 / 高円寺北の保護樹木群  
緑の歳時記 / ツタバウンラン  
特集 / みどりのイベント2011  
みどりの窓 / 桃井原っぱ公園  
杉並みどり探訪写真展  
園芸ワンポイント / ポインセチア

## この樹どんな樹? 見に行こう!

### 井草森公園のタブノキ

今年は東日本大震災があり、災害に対して強い関心が集まりました。皆さんも「日ごろの備えは大丈夫か」と思いを巡らす機会も多いのではないのでしょうか。

井草森公園は、杉並区で3番目に広い区立公園です。平成8年に「防災公園」としての機能を備えた公園として開園しました。外周部には、大火災でも延焼に耐えられるといわれている「タブノキ」が、防火植樹として10本余植えられています。

タブノキ(クスノキ科)は、常緑の葉を厚く茂らせ、乾燥した冬季でも相当量の水を含んでおり、昔から防火樹として屋敷周りに植えられてきました。葉は長楕円形で光沢があり、裏面はやや白っぽい色をしています。別名イヌグスとも呼ばれ、染料として樹皮を利用したり、線香の材料、家具や建材にも用いられています。赤い新芽は美しく、実は野鳥の食餌木ともなり、クワガタムシも好む樹種です。

春はトベラ、エゴノキ、夏にはムクゲ、アジサイ、秋はイロハカエデの紅葉やキンモクセイの芳香、冬にはサザンカやツバキが園内を彩る中、タブノキはこんもりと葉を茂らせ、静かに公園を見守っているように思えます。

皆さんも一度、井草森公園にタブノキを探しに行ってみませんか。



タブノキの新芽



井草森公園





## みどり探訪

### 高円寺北の保護樹木群

JR高円寺駅を降りて、中野方面に歩くと、大きな門構えの緑深い屋敷があります。門を入ると大きな木々が私たちを迎えてくれます。中でもイロハモミジの大木はのびのびとした見事な枝ぶり…。このイロハモミジを含め22本の保護樹木がこの屋敷の中にあります。

スダジイ、イチヨウ、シラカシ、モッコク、ツタ、イヌツゲなど、これらが保護樹木の指定を受けています。他にも敷地にはミズキ、ムクノキ、コブシ、カキノキなどの古木が、手を加えない自然な姿で立ち並び、屋敷林を形作っています。

また足元には、今では珍しくなったカントウタンポポが見られ、自然環境の良さが感じられます。

庭をまわると、屋敷の歴史を物語る大切な木「オトメツバキ」があります。ご当主の曾祖父母は、大正天皇妃の貞明皇后を5歳まで里子としてお預かりし育てられました。この「オトメツバキ」はこの頃、貞明皇后がお手植えされた木なのです。樹齢120年を超える今も、大きなピンクの色の花を咲かせています。



イヌツゲ



オトメツバキ

#### ●ご当主のお話

多くの大木、古木を維持、管理するのはとても大変です。特に台風などで枝が落ちてご迷惑をかけないように、敷地の一番外側に並ぶスダジイの手入れには気をつけています。木や草、鳥、虫など自然に囲まれた暮らしを通じて、これからも地域の皆さんにも安らぎを与えられるような場所になるよう、みどりを大切にしていきたいと思っております。

※個人宅につき敷地内に入ることは出来ませんが、敷地のまわりの道路から観賞できます。

## 緑の歳時記 区内でよく見かける帰化植物

### ツタバウンラン (蔦葉海蘭)

ゴマノハグサ科、地中海原産の一年生草本

**茎** は細く糸状で地上を這い、枝分かれして節や節の間から根を出し、長さ10~40cmほどになり、全体に無毛です。

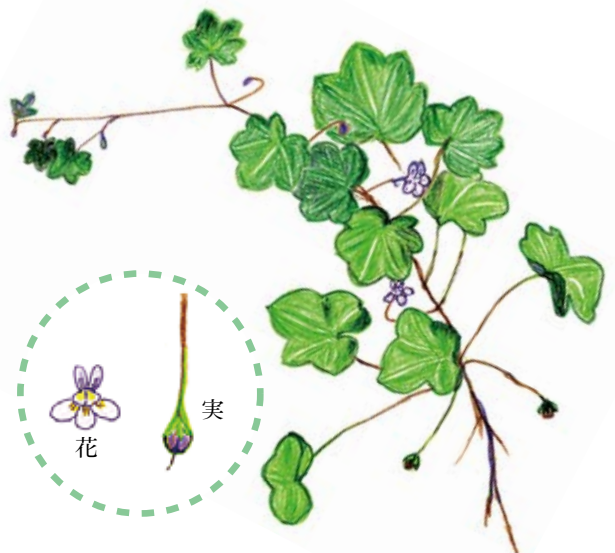
葉は長い柄があり、円形~扁円形で5~7の掌状に浅く切れ込み、互生します。

花も長い柄を持ち、白色~淡青色で暗紫色のすじのある長さ7~9mmの唇形の小花を葉腋に単生します。

果実は球形で長い柄でたれ下ります。

大正年間、観賞用に日本へ入り、ロックガーデン等に植えられましたが、野生化して道ばたや宅地の石垣のすきまに生えます。

区内では、善福寺川上流ぞいのせまい道の宅地の境目などで見ることができます。



花

実



# みどりのイベント2011開催!

福島県南相馬市支援  
チャリティーバザーとの  
同時開催



みどりのカーテン作りに南相馬市の子どもたちも参加してくれました。

イベントを楽しみにしていた、多くの方々に参加していただくことが出来ました。

手作りうちわや樹名板づくりの工作コーナーでは、子どもたちだけでなく、大人たちも真剣に工作を楽しんでいました。

柏の宮の生きものたちの展示コーナーでは、たくさん子どもたちが興味津々!ヘビやカメなどのいろいろな生きものを見たり、触ったりしている姿が、とても微笑ましい光景でした。

身近にある「みどり」をテーマに、みどりに親しみ、みどりと遊び、みどりについて考える「みどりのイベント2011」を5月29日(日)、柏の宮公園(浜田山2-5-1)で開催しました。

今回は、東日本大震災で被災地となった、福島県南相馬市の支援チャリティーバザーとの同時開催となりました。

当日はあいにく雨の中の開催となり、イベント企画の出展数が少し減ってしまいました。しかし、恒例の草花・苗木の販売、みどりの相談コーナー等は、雨の中も出展。



木の輪切りに自分の好きな絵を描いてペンダントを作っています。

みどりの  
**窓**

## 「桃井原っぱ公園」が開園しました!



「桃井原っぱ公園」(桃井3-8-1)が、今年4月1日に開園しました。

この地は、かつて中島飛行機の原動機工場が建ち、国産第1号の飛行機用エンジンがつくられました。

戦後、幾多の変遷を経て日産自動車荻窪工場となり、その間、日本のロケット第1号も開発された場所でもあります。

今は、区立公園で2番目の広さ(面積4.0ha)となり、地域の人々の憩いの場、また、災害時は周辺の消防署、警察署、病院等と連携した避難拠点という大きな効果が期待されています。

## 杉並みどり探訪写真展

みどりの写真展実行委員会主催の「杉並みどり探訪写真展」が、5月10日~20日、ギャラリーオノマトペで開かれました。

過去、本紙に掲載された30点あまりの写真が展示されました。

会場では、展示写真の場所がわかる「みどりのありか」を示した地図が配布されました。来場者からは「区内にこんな素敵な場所があったなんて…」という声も聞かれ、地図を片手に「身近なみどりさがそう!」というテーマにぴったりの写真展でした。

※来場いただいた有志の方々から、みどりの基金への寄附にご協力いただきました。ありがとうございました。





みどりに関する相談は  
**塚山公園みどりの相談所**  
 ☎03-3302-9387  
 杉並区下高井戸5-23-12  
 毎週土・日曜日 午前9時～午後4時30分  
 休所日: 年末年始(12/29～1/3)



## ポインセチア (トウダイグサ科)

### ●置き場

ポインセチアは日光が好きなので、冬場は室内温度が7～8度くらいはあるガラス越しの場所に置きます。

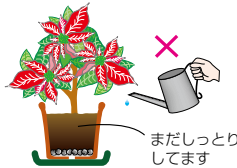
4月頃になったら戸外へ移動させ、しっかり日光に当てるのが大切です。

ただし、真夏は直射日光を避けます。

### ●水やり

鉢土の表面がしっかり乾いてから行います。特に5月以降は水やり頻度は多くなるので、与える時は鉢底から流れ出るまでたっぷりと行います。

◎受皿に水を溜めないようにすることも大切。



### ●植替えと肥料

4月中旬から、枝を2～3芽残して切り、ひとまわり大きな鉢に植替えます。

用土は赤玉土(小)5に腐葉土3、ピートモス2くらいを、元肥として粒状の化成肥料を適量、混ぜたものを使います。

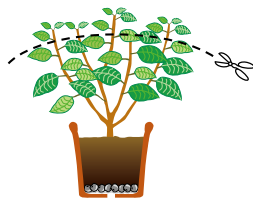
植替後、一週間くらいは半日陰に、その後は日当たりのよいところに置きます。肥料は9月頃まで緩効性化成肥料を追肥します。

ポインセチアは根をいじられることを嫌うので、植え替える際に根鉢をくずさないことがポイントです。

### ●摘芯

7月上旬～中旬に2～3芽残して摘芯し、さらに8月中旬～9月にかけて4～5芽残して2回目の摘芯をします。

枝の混んでいる所は、小枝を間引き、日当たりと風通しをよくします。



全体のバランスを見ながら、各枝の先端の葉を3～5くらい切取る。

### 年間管理表

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状態		観賞					生育					観賞	
置き場		ガラス越しに日が当たる室内					日当たりのよい戸外			ガラス越しに日が当たる室内			
肥料						緩効性化成肥料							
水やり		月2回くらい			鉢土の表面が乾いたらたっぷり								
主な作業					植え替え			挿木		短日処理			
								摘芯		摘芯			

クリスマスの時期になると、色鮮やかに街なかを彩るポインセチアですが、春先以降の手入れを皆さんはどうされていますか。

ポインセチアの赤い部分は花びらではなく、ごく小さな花の集まりを取り囲んでいる苞葉(ホウヨウ)という部分が色づいたものです。苞葉が赤くなるのは、花芽の成長と連動しています。秋の彼岸を過ぎて夜の長さを感じ始める頃、ポインセチアの花芽がではじめ、時を同じくして苞葉も色づいてくるのです。

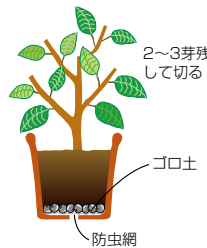
そこで今回は、冬の季節に合わせて、また赤いポインセチアを楽しむようなワンポイントを紹介します。



### ●短日処理

苞葉を赤くするには、9月頃から一日13時間以上の夜(暗い)の時間と15℃以上の温度の短日処理を行います。

これを毎日くり返すと、20日ほどで苞葉が色づき始め、11月上旬には完全に色づきます。



夕方5時～翌朝8時、箱をかぶせて遮光。朝になったら箱を外し、しっかり日光に当てるのが大切。

### ●挿し木(殖やし方)

7月に摘芯したときの新しい芽は挿し木でふやすことができます。挿し枝は、切口の白い樹液をよく水洗いしてから、パーミキュライトなどの挿し床に挿します。

土が乾かないように水やりをし、半日陰に置けば、約一ヶ月で鉢上げができます。

## 編集後記 「みどりとひと」は、みどりのボランティアと協働で編集しています。

- 津波の後の瓦礫の傍らに、スイセンが可憐に咲いていたのを映像で見ましたが、植物の生命の強さに、今更ながら、深く感激しました。(山)
- 道ばたの小さな花々も一生懸命美しく咲いて、散歩の楽しい季節です。(原)
- 今はやりの緑のカーテンにトライ! ゴーヤとアサガオを植えてみました。緑の葉を吹き抜けてくる涼しい風を楽しみに手入れをしています。(朋)
- 壁面を覆うツタの美しさ、実生のモミジの大樹、貴重なカントウタンポポ、生態系の調査など、都会で緑を守るご一家に感謝します。(大)
- 塚山公園に澤地先生を訪ねた折、緑の豊かさに感動。神田川沿いのサイクリングも最高。杉並でリゾート気分。(芳)
- 真夏の太陽の下、「人間たち」は節電対策で汗びしょりだが、野草たちは暑さにもめげず可憐な花を。がんばろう「人間たち」も!(羽)
- 東日本大震災があり、防災上、樹木を改めて見直したい気持ちです。(石)



みどりの新聞 みどりとひと156号 平成23年7月20日発行

編集/みどりのボランティア  
 編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111  
 「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

